練馬区立旭町小学校　学校だより　６月号　平成２７年５月２９日発行　校長　道山　正史

きらめく風

すすんで学ぶ子ども　心ゆたかな子ども　体をきたえる子ども

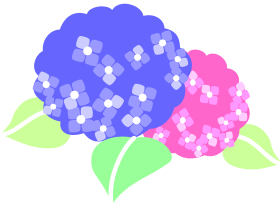
紫　陽　花

旭町小学校長　道山　正史

中庭の紫陽花が花をつけ始めました。いくつかある立派な株が、今年も見事な花を美しく咲かせてくれるのが楽しみです。自然の植物がたくましく、伸びゆく様は、私たちに勇気と希望を与えてくれます。

草や木の生長にとってなくてはならないのが、雨の日であり、またよく晴れた日です。どちらもちょうど良いバランスで繰り返されるので、幹や枝は大きくなり、葉は勢いよく生い茂ります。もし、雨ばかり降ってしまうと、植物は根が腐って育ちません。逆に晴れの日ばかりでも、水分がなくなって枯れてしまいます。このように、植物の生長には反対のもの同士が必要です。

子どもの心の成長にも、雨と晴れのようなまったく反対のものが必要です。それが「やさしさ」と「きびしさ」です。根底に「優しさ」をもちながらも、子供たちは「やさしい」だけでは甘えが出たり、わがままが出たりして、よい心は育ちません。また、「きびしい」だけでも気持ちがすさんだり、いじけたり、いらいらしたりして、良い心は育ちません。子供たちは、一日の中で何回か注意されたり、ほめられたりする機会があります。厳しく叱ったり、指摘したりした後でも、なぜ注意されたのか気づくようになればほめてあげることも大切です。しかし、最近は注意をしたり、叱ったり、指摘したりしても、なかなか素直に聞き入れようとしない子供たちが増えてきているのを残念に思うことがあります。

子供たちは、時々過ちを犯すこともあるかもしれませんが、その時に厳しく注意されたり、過ちに気づき理解できたことを優しくほめられたりすることによって、そしてそれを素直に聞き入れることによって、的確な判断ができる人に成長していきます。繰り返し繰り返しこのようなことを経験することによって、社会の一員として、自覚をもった人間に成長していくのだと思います。

６月は常識的には梅雨に入り、雨の多い季節です。でも、前述のように紫陽花が大輪を咲かせることが今から楽しみです。旭町小学校の子供たちが紫陽花の大輪のように大きく成長していくためには天気の良い日ばかりでなく、雨の日も心の成長には必要なのです。